

＜その他、取組に特徴のある事例＞

○目指せ！生き活きと暮らせる、自然と共生する集落

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	新潟県十日町市川西千手地区 とお か まち し かわにしせんじゅ ち く			
協 定 面 積 76.2ha	田 (100%) 水稲・大豆・ソバ	畑 (0%)	草地	採草放牧地
交 付 金 額 1,601万円	個人配分 40%			
	共同取組活動 (60%)	耕作放棄防止活動	35%	
		地産地消推進活動	2%	
		集落営農推進活動	9%	
		総務費	12%	
		高付加価値農業推進費	2%	
協 定 参 加 者	農業者97人、(株)千手(構成員344人)、農産物直売所「じろばた」、NPO魚沼ゆうき 開始：平成17年度			

2. 取組に至る経緯

千手地区は、十日町市（旧川西町）の11集落で構成される地区で、近年、少子高齢化及び兼業化による農業担い手不足が顕著になり、農業生産意欲の減退や農地の保全管理への心配が地域全体に見られるようになった。そこで、一集落や一個人では実施することが難しい作業や農産物の販売等を協力して行うことができるよう、第2期対策から11集落が協定を締結（うち新規締結9集落）するとともに、地区の任意組合等5組織を統合して設立した農業生産法人(株)千手、地元直売所の管理組合「じろばた」、有機農業の支援等を行っている「NPO魚沼ゆうき」も協定に参加をしている。

3. 取組の内容

当地区では、協定を広域化したことにより、協定事務を(株)千手が担い各集落の負担を軽減したり、大掛かりな水路や法面の改良工事などを実施することが可能となった。平成22年に行った法面工事では、高畦への作業用小段の設置により高齢者でも安全に作業ができるようにしたり、水路改修工事では、工事で出た岩を活用して自然景観を活かした改良を行った。また、地区内にある直売所「じろばた」と連携して、郷土料理の「そばいなり」を商品化するなど地元農産物の加工品開発に取り組んだり、NPOと連携し地区として環境保全型農業を推進し、水稲の有機栽培を目指した取り組みを行っている。他にも、平成18～19年に耕作放棄地をそば畑等へ復旧し、地元そば店と連携した取り組みを行うなど、地区全体で地域活性化に向けて取り組んでいる。



【耕作放棄地を復旧しそば畑に】



【高畦に作業用の小段を設置】



【地元農産物の加工品開発】

【集落の将来像】

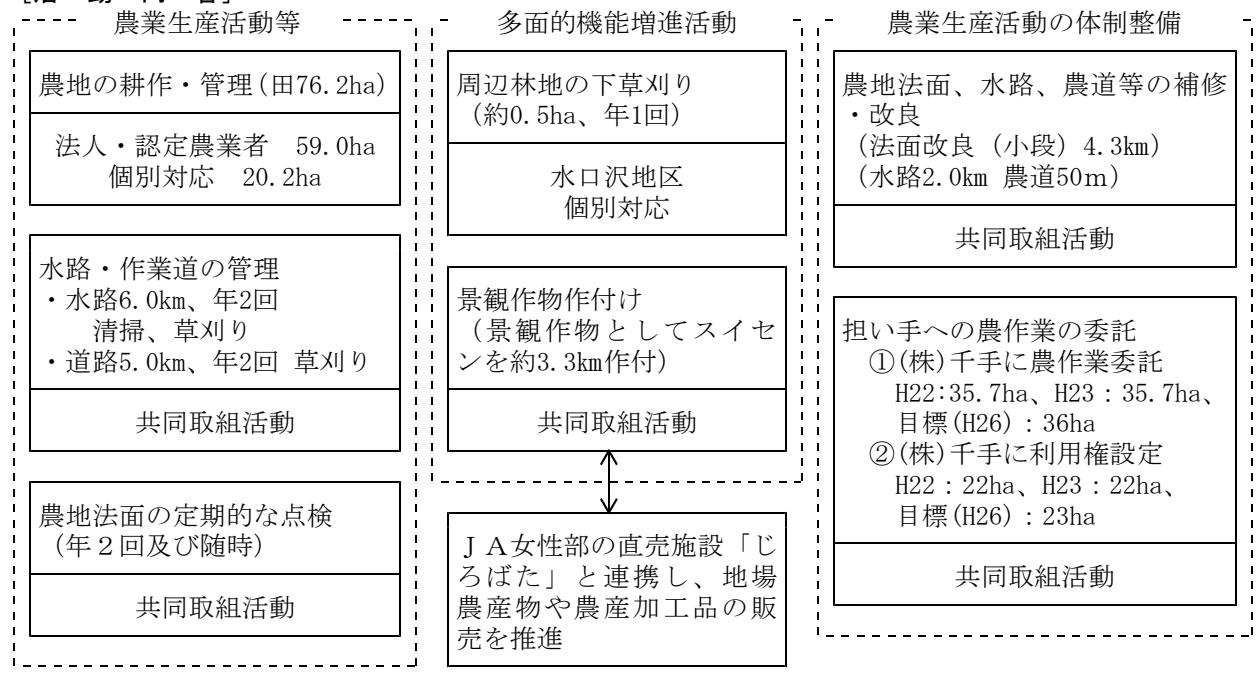
- 担い手農業者に農地を集積しながら、誰もが元気で生き生きと兼業農業として暮らせる集落
- 担い手農業者が主体となって農作業等を行い、環境保全型農業で栽培した安全・安心な魚沼産コシヒカリを生産し、自然と共生する地域を目指す



【将来像を実現するための活動目標】

- 農業生産法人(株)千手を核に、認定農業者に農地を集積し、農業経営基盤の強化を図る
- 集落全体で農地を保全し、(株)千手が主体となり高畦に小段を設置、農道の草刈作業をする
- 直売所管理組合「じろばた」において地場農産物や農産加工品を販売する
- 環境保全型農業を推進し、有機栽培者を支援する

【活動内容】



集落外との連携

- 有機栽培者支援団体「NPO魚沼ゆうき」と連携し、有機農産物の生産及び販売
- 地元そば店「小嶋屋総本店」やJ Aと連携し、地域活性化の核として復旧畑及び水田でソバを栽培

4. 今後の課題等

- ・地域全体の収益を更に確保するため、(株)千手や「じろばた」において新たな商品開発を継続し、地場農産物の品目や加工品の種類の増加を目指す。
- ・地域における水稻の有機栽培技術を確認し、安定した生産と販売を目指す。
- ・若者が農業の現場で元気に働くことができるよう、集落や地域で所得が確保できる場を整え、定住できる環境を整えていく。

【第2期対策の主な成果】

- ・耕作放棄地を3ヵ所(5.2ha)解消した
- ・担い手集積により生産体制の強化が図られた((株)千手の実績:平成17年17.0ha→平成21年54.5ha)